

公園の地下に眠る幻の花壇

「ワイルドフラワーガーデン」を知っているだろうか。これはいろんな花のタネを適当に混ぜた土を地面にただけの庭(?)だが、季節ごとに予期しない花が咲くまさにワイルドな楽しみがある花壇だ。実は打瀬1丁目公園の地下にはこの「ワイルドフラワーガーデン」が眠っている。

打瀬1丁目公園は2000年9月に現在のよう形の公園として整備されたが、この土地がそれまでの空き地から公園として整備さ

れる前、気を利かせた企業庁の担当者がいろんな花のタネを混ぜ込んだ土を使って、土地の整地をした。実際に工事が始まるまでの数ヶ月の間、この土地は「放置」されていたが、その間ここでは色とりどりの名前も知らない花があちこちで芽吹き、たくさんの花が咲き乱れていたことがあった。建設用の重機が置かれた荒地に突如出現した野性味あふれるお花畑に近隣の住民は驚き、花を摘みでは楽しんだ。写真はこのときのものだ。

やがて公園は整備され、現在のように芝生で敷き詰められた打瀬1丁目公園が完成したが、今もこの公園の下にはまだ発芽していない大量の花々のタネが眠っている。将来この公園が更に別の利用目的で整備されることがあれば、工事で掘り返した土の中からは多くの花々が待っていたように芽を出し、花を咲かせて私たちの子どもや孫を驚かすことができるかもしれない。【松村】



(写真左) 様々な花が乱れ咲く「ワイルドフラワーガーデン」。後ろに見えるのは12、13番街。コア付近はまだ空き地で「かるがも館」が見える。道路にはまだ電柱が。



(写真上) 花の好きなお二人にはこの不思議な花壇はいい花摘みの場だった。

(写真左) 咲いていた花は外来の花だったのか、原色で華やかな花が多かった。



まめ知識「ベイタウンの公園はこうしてできた」

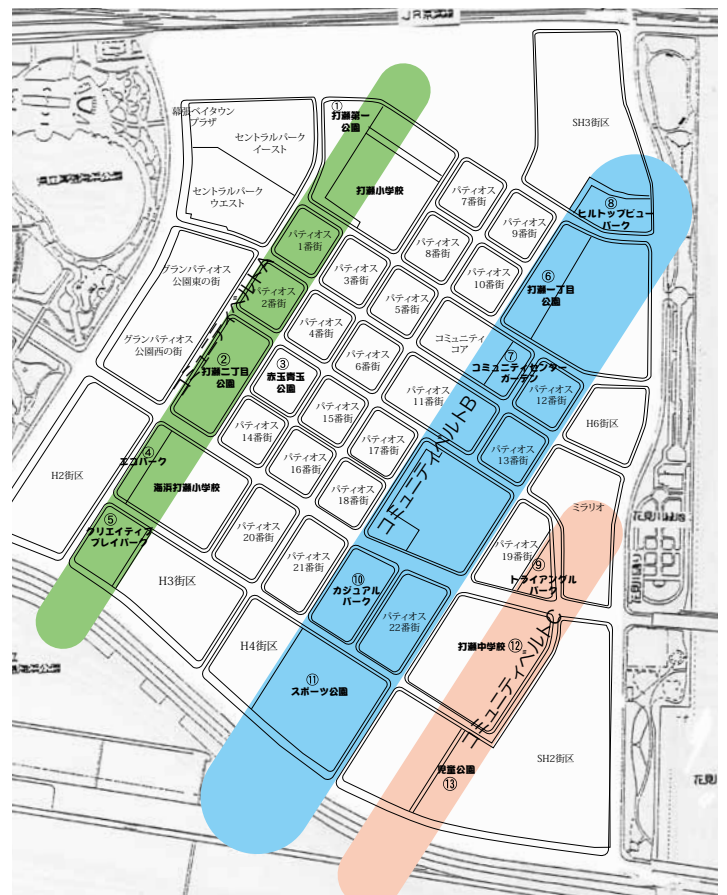
ベイタウンの開発計画では、公園は地理的に3つのベルト状に配置されていた(図参照)。これらのベルトはそれぞれ、コミュニティベルトA、B、Cと呼ばれ、ベルトごとに特徴をもって計画されていた。コミュニティベルトとは、簡単に言えば見通せる空間とでも言うもので、公園、緑地、学校の校庭、番街の中庭などの空間を直線的に配して、海までの見通しを緑のベルトで構成するものだ。初期の構想では各番街の中庭もすべてオープンにし、連続した公園ベルトの一部とする案があり、いくつかの番街の中庭がオープンになっているのはその名残だ。

3つのベルトにはそれぞれ特徴をもって設計されており、その内容は次のとおりだった。

● **A ベルト**：子どもを中心としたベルト。打瀬小学校横の打瀬第一公園①や、子どもの姿の絶えない打瀬二丁目公園②と打瀬第二公園③(赤玉青玉公園)、学校ビオトープを参考にした打瀬ふれあい緑地④(エコパーク)。そして更に海側には子どもの創造力を刺激するクリエイティブ・プレイパーク⑤。

● **B ベルト**：コミュニティの中心部。活動の舞台(アクティビティベルト)としての性格を与えられている。このベルトには、アクアダクトパーク⑥(10番街横)、コミュニティセンターガーデン⑦(コア横)、ヒルトップビューパーク⑧、カジュアルパーク⑩、スポーツパーク⑪が計画され、3つのベルトの中では最も公園の数が多く規模の大きいベルトとなっている。

● **C ベルト**：Cベルトは先の2つのベルトとは違い、静かな「ひきこもりの場」として性格づけられている。含まれる公園は、トライアングルパーク⑨(ミラリオ横)、打瀬中学校の校庭とその横の緑地⑫。



東の街のコミュニティ紙「航海日誌」が100号達成

グランパティオス東の街の「東の街コミュニティ」が発行する月刊のコミュニティ紙「航海日誌」がこの8月号で通算100号を迎えた。コミュニティ紙を発行する番街は他にもあるかもしれないが、100号を聞くのは初めてだ。今回は「航海日誌」を中心になって発行している、岩本正治さん、佐藤徹太郎さん、樺田直樹さんの3人にお話を伺った。【板東】

「航海日誌」が創刊されたのは、今から9年前の2000年7月8日。第2号が発行されるまでに多少間が空いたが、以来ほぼ毎月発行を続けてきている。創刊のきっかけは、当時自治会組織を立ち上げようと集まったスタッフたちの間で、情報伝達手段として何か必要と話していたところ、隣接する番街の「公園西の街」でコミュニティ誌が発行されているという話を聞き、対抗心(?)を燃やして発行したとのこと。

創刊号には「航海日誌」という名前の由来について次のように書かれている。「海に近いベイタウンの街区として、海に関係のある名前が良いのではないかとこのところから出発しました。東の街を『船』に例え、そこに

暮らししていくことを『航海』に例え、その航海が安全、快適で楽しくなるように、ニュースレターが『コミュニケーションのよりどころになれば…』との願いを込めたネーミングでありました」

記事の内容は、マンションの管理人さんからのお知らせから、毎月の映画の会のお知らせ、暮らしのメモ(例えば、最新号では東の街での「地デジ」の視聴方法について)、など盛り沢山だが、何といたっても目玉は連載で続いている『公園東の街物語』。これは、無作為に選ばれた東の街の住民がリレーで書き繋ぐ物語(エッセイ)だ。内容は、何故この街に住むようになったかという話や、まわりで起きたことなど多岐に渡る。ある日突然ポストに寄稿の依頼が入り、「やっと自分の番が来た」とか「本当に来ることもあるんだ」と受け取り方もさまざまなお話だ。このようにして紡いできたリレー物語は99号までで89話となっている。

さて、良くぞ100号まで積み重ねて来たものだが、苦勞・苦痛はないのだろうか聞いてみた。すると、「東の街コミュニティのモットーでもある、『できる時に、できる人が、でき

る範囲で』の精神でやっているもので、毎月の義務感とか苦痛というものはありません。実際、ネタがないときにはその月はパスしたり、A4で1枚だけにしたりしています。(樺田さん)」とさりりと答えられてしまった。毎月月末になると記事の締切に追われるベイタウンニュース記者からすると、気の抜けるような返事だった。しかし、実態は、樺田さんが出張先で記事ネタを作り、夜中に岩本さんが編集・レイアウトを行い、そして翌朝に樺田さん・佐藤さんで印刷して配布の会(ベイタウンニュース同様、毎月第一土曜日)に間に合わず、というウルトラCもざらにあるようだ。

100号を迎えることも、3人にとっては大きなことではなく、単なる通過点としか考えていない。「住民は385世帯あるので、全ての世帯に『公園東の街物語』を書いてもらうだけで30年はかかると思っています。世代交代もあるし、家族構成も変わってくるので、物語の終わりはないのでは?(岩本さん)」と至って肩の力が抜けている。どうもこちら辺りがコミュニティ活動を楽しく、気長に続けられる秘密のようだ。

実はベイタウンニュースもこの航海日誌とそのスタッフの皆さんには大きな恩恵を受けている。みなさんは毎月ベイタウンニュース配布時間の30分ほど前にコアに来て「航海日誌」を印刷し、そのまま印刷室に隣接する講習室でベイタウンニュースの配布も手伝ってくれている。もともとベイタウンニュースを番街単位で責任配布するシステムができたのも東の街でベイタウンニュース配布の会を出張開催したのがきっかけだった。「航海日誌」は毎月頂いているので100号のことも分かった我々編集局だが、このベイタウンにはもっと続いている知られざるコミュニティ誌があるかも知れない。ご存知の方がいたら、編集局までお知らせ下さい。

→メールは、tbando@m2.pbc.ne.jp まで



これまで発行された100号を手に。写真向かって左から佐藤さん、岩本さん、樺田さんの3人。

H7 街区問題続報

まずお詫びから。先月号でH7街区には高齢者向けの公的施設が計画されていると書いたが、これは誤りだった。計画されているのは「公的」なものではなく、「民活」によるものだということが読者の指摘で判明した。公共施設として整備されるなら間違いないと期待されていた方には申し訳ありません。

では、公的なものと民活ではどこが違うのだろう。実はこれは表現の違いだけでなく非常に大きな問題を含んでいる。H7街区の建設計画は現在は企業庁がプランをつくり、住民との間でこのプランを巡って協議をしているが、実はこのプランは企業庁が責任をもって実現させるというものではない。企業庁はこのプランを持って開発業者を募集し、応募した業者がH7街区にマンションやその他の施設を建設するというものだ。従って、もし開発の条件が厳しく建設しても採算が取れない

いと考えると応募する開発業者がゼロということもあり得る。実際今回のプランでも応募があったのは1グループだけだという。マンションだけなら売れるが、高齢者向け住宅や介護施設を含めて運営するとなると二の足を踏む開発業者が多いということだろうか。

これは高齢者向けの施設を希望する住民にも心配のタネを投げかけることになる。民活となった場合、果たして本当に高齢者向けの施設はできるのかという疑問だ。実現したとしても採算をとるために高額で一般の住民が利用できないような施設になってしまうことはないだろうか。また開発には着手したがその後の環境変化でマンションだけを残し、高齢者向け施設からは撤退、あるいは施設をマンションに変更などという結果にはならないだろうか。

実はこれらについては何も保証はない。間

違はなく住民の望むような高齢者向け施設ができるかどうかをどう担保するか今後の協議のテーマだ。

H7街区開発計画を巡る問題は、現在は企業庁が提示したプランをベイタウン住民が了承するかどうかの返事を待っている状況で、ボールは住民の側にある。

投げかけられたボールを返すために街の唯一の意思決定機関である自治会連合会は何度もこの問題に関する説明会を開き、より広範な意見を聞こうとしてきた。しかし説明会を開いても参加者は毎回50人前後。しかもそのほとんどがこの問題に直接関係する住民で占められている。

先日開かれた自治会連合会の7月の定例会議でもこの問題は議題に登ったが、各番街の役員からは活発な意見は出ず、議論は進んでいない。執行部では現在の状況で賛成・反対の議決をとり、先に進めることが果たして「民主主義的な解決になるのか」というジレンマに悩んでいる。【松村】

日時：8月29日(土) 午後2:00～8:00(雨天の場合は8/30に順延)

場所：パティオス・プロムナード 4番街～6番街、バレンタイン通りの一部、コア周辺

主催：幕張ベイタウン商店会

模擬店：金魚すくい、わたあめ、スーパーボール、ヨーヨー、焼きそば、生ビール、ジュース、カレー、かき氷、たこ焼き 他
イベント：ジャズバンド等の音楽演奏、盆踊り大会、子供みこし など

イベントには手話とダンスを融合した手話パフォーマンスの先駆者、高木理叶さん率いる「マカロニ」も出演します。高木さんはTVにも多数出演。現在は、テーマパークの水上ショー「レジェンド・オブ・ミシカ」に出演中です。

場所は5と6番街の間の路上ライブで、開催時間は午後3時～30分程度(29日のみ開催)です。またと見られない「本物の感動を！」味わいませんか？



<前夜祭>

日時：8月6日(木)

16:00 開場、17:00 開演、21:30 終演予定

場所：幕張海浜公園 G ブロック

(浜田川脇の新習志野側 ヘリポート隣)

地元選出バンド及びサマソニ出演プロアーティストによる演奏

<フリーマーケット>

サマーソニック 09 との連動フリマを開催

日時：8月8日(土)、9日(日)

10:00～16:00(雨天延期)

場所：ワールドビジネスガーデン前広場

<千葉県産飲食ブース>

サマソニ期間中千葉県産飲食ブース

スタジアム外周(フリーエリア)

日時：8月7日(金)～9日(日)

場所：メッセホール内(チケット必要エリア)

連絡先：幕張新都心賑わいづくり研究会事務局

(県経済政策課) 043-223-2733

タチアオイのタネあります

先月号でご紹介した花のタネのプレゼント。ナノハナはなくなりましたが、タチアオイのタネはまだあります。さらに8月中旬には珍しいオレンジ色など白以外のタチアオイのタネも収穫できる予定。

花のタネは打瀬公民館(ベイタウンコア)受付で、「ベイタウンニュースで見た」とお申し出ください。

8月のコア・イベント

8月22日(土) 寺子屋 工作ランド

「竹とんぼ」「バランスとんぼ」

時間：9:30～

場所：ベイタウン・コア 工芸室

持ってくるもの：小刀、ハサミ、木工ボンド、その他工作道具

参加費：50円(保険料)

8月23日(日) 第76回ファッティオリの会

時間：9:30～11:30

場所：ベイタウン・コア 音楽ホール

フルコンサートピアノ「ファッティオリ」でのピアノ演奏、また他の楽器、歌アンサンブルなど。どしどしお申し込みください。ご希望で非公開にもできます。申し込みはいっぱいになり次第締め切らせていただきます事、ご了承ください。

プログラム内容は <http://www.baytown.ne.jp/core/> のファッティオリの会 HP をご覧ください。申込締切：8月16日(日) 連絡先：阿曾 (TEL/FAX: 211-0273)

わくわくお話しは8月はお休みです。次のお話しは9/16(土)です。よろしくお願います。

ベイタウンで強盗事件

去る7月5日午前4:00頃、打瀬公民館(ベイタウン・コア)付近で強盗未遂事件が発生した。被害にあったのは公民館の清掃員の女性Sさん。毎朝早朝に出勤していただき、この日も同じように4:00頃公民館に到着した。子どもルーム側の入り口からコアに入ろうとしたところ、中庭の柱の陰で待ち伏せていた男に突然襲われたという。

いつものように灰皿を取り外そうとしたところ、背後からリュックサックを引っ張られた。リュックは胸の部分にベルトがあったので奪われなかったが、身体が後ろ向きに引き倒された。男は引き倒したSさんを足で蹴るなどし乱暴を加えたが、リュックが奪えないとわかるとそのまま逃走したという。

早朝なのと身を守るため目を手で覆っていたため男の顔までは確認できなかったが、犯人は全身黒尽くめの服装をしていたという。

Sさんは引き倒されて蹴られるなどされ、全身の打撲で10日間の安静という診断をうけ、現在コアの勤務を休まれている。

最近では前号でもお伝えした「放火」と見られる不審火もありベイタウンでも治安の悪化を示す事件が続いている。

ベイタウンニュースがホームページ開設

ベイタウンニュースではニュースの創刊号から最新号までをpdfファイルで閲覧できるホームページサイトを開設しました。

ニュースのpdf閲覧は旧「ベイタウン・ネット」で開設し、多くの方からベイタウンの歩みがよく分かったと好評でしたが、ベイタウン・ネットの閉鎖とともにニュースpdfファイルの閲覧も停止していました。

その後、多くの方から過去のベイタウンニュースを見たいという声をいただいていたが、今回ようやくベイタウンニュースのサ

美浜文化ホールで松本和子さんがコンサートを開催

「美浜マンスリー・クラシック」Vol.5

美浜文化ホール 音楽ホール

8月27日

第1回 15:00 開演 (14:30 開場)

第2回 19:00 開演 (18:30 開場)

出演：

松本和子(ソプラノ)

小田 求(バリトン)

須江太郎(ピアノ、監修)

プログラム：ドビュッシー、アーン、中田直

直、滝廉太郎、バーンスタイン他の曲

料金：全席自由

前売り券 千葉市民1,500円、シニア・学生1,200円、一般1,800円

当日券：1,800円

お問い合わせ 美浜文化ホール：043-270-

5619 (9:00～17:00)

イトを開き、みなさまに閲覧いただけることになりました。

現在このホームページの内容はベイタウンニュースの閲覧のみですが、将来的にはベイタウンのイベント案内やサークル紹介など、役立つ情報満載の楽しいサイトにしたいと考えています。サイトのURLは下記の通りです。是非お試しください。

<http://www.baytown-news.net/>



ブエナテラーサのパン屋さん

「あれ、こんなところにカフェができたのかな・・・」海浜幕張駅からメッセ大通りを通ってベイタウンの入り口に立つと、一瞬そんな錯覚を覚えるのが、「ブエナ・テラーサ」（以下ブエナ）の1階にあるエントランスラウンジだ。まるでリゾートホテルを思わせるような広々とした居心地のよい空間が広がり、子どもたちが遊ぶ傍らで、ママさんたちがおしゃべりを楽しんでいるのが外からでもよくわかる。そこに漂うのは焼きたてのパンのいい香り！その香りにつられて、ラウンジにお邪魔してみた。

この日はブエナのフロント業務を預かる（株）ASQの六角さんがキッチンでパンを焼き、カウンターに並べていた。パンはクロワッサンやデニッシュ類を中心に16～17種類あり、その中から日替わりで13種類程度を毎日焼いているとのこと。

「1日に出るのはだいたい20～30個くらい。あんこクロワッサンやチョコチップパルミエが人気ですよ。」と教えてくれた。

焼きたてパンが並ぶのが午後2時ころ。そこへこれからスイミングに行くという小学3年生の晴季くんと正悟くんの二人がパンを買いにやってきた。一緒にいたお母さんに聞いてみると「外にでなくてもパンが買えるので、習い事や塾に行く前によく利用しますよ。引越してきた当初は本当に毎日のように買いに来ていました」とのこと。

ラウンジではコーヒーや紅茶なども楽しむことができ、カフェ気分を満喫することができる。カフェは夜7時まで営業しているそうだ。ただし！！焼きたてパンとカフェはあくまでもブエナの住人のためのサービスとして



恐竜博の帰りにはマンハッタンで記念撮影

ホテル ザ・マンハッタンでは7/18よりメッセで開催されている恐竜博にあわせて、ホテル1階ロビーに巨大恐竜ポスターを展示しています（写真）。

その大きさはなんと8m×4mの巨大なもの。このポスターを貼ったロビーが今や恐

竜博を見たあとの記念撮影スポットとして子どもたちに大人気です。

入場や撮影はもちろん無料。巨大恐竜の前に立てば、ジュラ紀の世界にタイムスリップ！恐竜博の帰りに寄ってみては。



提供されているもので、私たちが散歩の途中で気軽に立ち寄ることはできない。一度、外から窓越しに「パンを売ってもらえる？」と聞かれたことがあったそうだが、住人サービスの一環だからということをやむなくお断りしたそうだ。

ブエナにお友達がいる人はぜひ一度お試しあれ！【Y.T.】

ラジオ体操はじまる

今年もベイタウン夏の恒例ラジオ体操が7月21日より始まった。今年はいにく曇りや雨の日が多く、スッキリと晴れた空の下とはいかないが、それでも取材した7月25日は土曜日とあってお父さんに連れられた小さな子ども達の参加が目立った。

今年で4年目を迎えるラジオ体操子どもリーダーたちも参加し、7月初旬から早朝練習してきた模範体操を披露した。

ラジオ体操の後半は8月21日（金）から海浜打瀬小学校庭で日曜日を除き毎朝6:30より行われる。【松村】

